〔自由論題〕

民の記した英語―庶民の好奇心　河元由美子

（問い合せ ☎〇三-三八九一-六〇六〇　松木英治）

## 例会記録

**十月例会**　平成十一年十月二十三日（土）

順天堂大学医学部九号館八番教室

一、検梅医・松山不苦庵の足跡　中西　淳朗

一、ドイツ自然研究者および医師協会の一七五年（二）

―専門・分科化とアマルガメーションの二十世紀　小原　正明

**十一月例会**　休会

## ❋❋❋ 紹　介 ❋❋❋

宇和島市医師会医学史編集委員会（清水 英）著

『宇 和 島 藩 医 学 史』

宇和島には膨大な藩の史料が残されている。司馬遼太郎著『花神』の一節にこうあります。「蘭学は宇和島という評判がすでに先代藩主の伊達宗紀のときから世にひびいていた」と。

本書は宇和島藩庁伊達家資料である「家中由緒書」および「記録書抜伊達家御歴代事記」を活用して、その藩医の生活史を克明に記述した。宇和島を中心とした四国西南地域をカバーする地域医学史が、宇和島医師会設立五十周年を期に刊行にこぎつけた。約三百年に近い藩政時代を通じて、藩医を中心にまとめたものは全国的に珍しい。

本書は三部構成で、第一篇「宇和島藩医学史概説」では、藩主の治世年代別に藩医及びその子弟の生活史が克明に記述されている。また藩の医学教育や医療政策防疫活動が具体的に詳述されている。とくに第九章の「宇和島藩の種痘とコレラ防疫」は第一篇のハイライトの部分である。日本史的にみて最も早い時期での種痘（牛痘）の実施と藩の積極的支援の記録、またコレラ防疫においては最も先端的な当時の蘭方医学と従来の漢方医学との結合によってめざましい成果を上げたことにより、宇和島藩の医学の特色を描き出している。

第二篇「医家列伝」では、藩医として代々続いた八家と十四人の医師を取り上げている。医師の全体的人間像を描くことに視点がおかれ、その為に家譜の研究や、特定の医師については墓所の発見と墓石の石碑文の解読によって生活史が明らかになったものが多い。高野長英を宇和島に伴った富沢礼中、宇和島から初めて適塾に入門した林玄中、シーボルトに学んだ二宮敬作などが特筆される。

第三篇「総合医学史ノート」では編集者の研究の集積を整理し、世界医学史の知識を念頭において郷土の医学史を考え